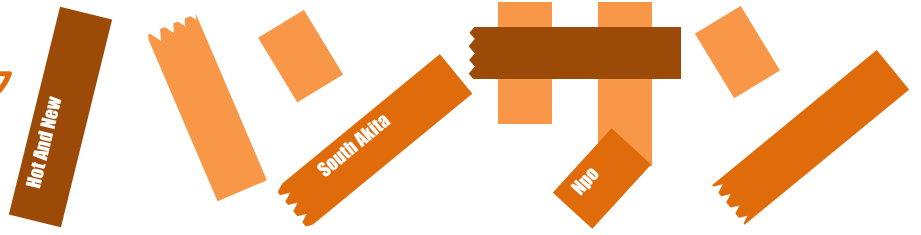


県南のNPOを情報でつなぐ、ささえる。

秋田県ボランティア NPO 活動ニュース

「県南版」



- P2 ……活動ウォッチング
朗読グループあおぞら
- P3 ……NPOの基礎知識
NPO法人を設立するには
- P4 ……秋田県南 NPO センターより
若者の就活を応援します

今月の表紙

「美しい里山を次世代に継承」

7月18日、NPO法人角館里山再生プロジェクトが仙北市角館の天神山で遊歩道の草刈りや木々の剪定、枝拾い等の整備を行いました。武家屋敷通りからほど近い里山であっても、人の出入りがなくなると荒れてしまいます。未来の子どもたちに、安心して生活できる環境と美しい里山を残すためには、どうしても人の手による作業が必要です。今回は大曲支援学校せんぼく校の生徒たちが、里山の環境と美しい景観を守るために一緒に汗を流しました。

(小山留理子)

8

August 2019

Vol.144



活動ウォッチング

THEME_ボランティア/NPO

子どもたちとともに戦争を語り継ぐ

DATA_団体情報

朗読グループあおぞら

代表/小松 恵里子さん

連絡先/TEL 080-1836-1810

MAIL erikoco0321@yahoo.co.jp

あの夏を忘れない

74年前の8月6日、8月9日、広島と長崎に原子爆弾が投下されました。当時のその悲惨な状況を知る人は時が経つにつれて徐々に減ってきています。

朗読グループあおぞらは、広島・長崎で原爆の被害にあった方たちの手記を読み、伝えていくことを目的に、2005年10月に発足しました。毎年7月最終日曜日に朗読劇「あの夏ー1945・ヒロシマ ナガサキー」を公演しています。会員は現在11名ですが、未就学児から高校生までの子どもたちに呼びかけ、朗読者として参加してもらっています。

平和への願い

「平和はじっと待っていてくるものじゃない。皆さんが、自分たちの手で作っていくものなのよ。」広島で被爆された沼田鈴子さんの言葉です。秋田県にも被爆された方々やその家族がいます。同団体は、74年前の出来事を風化させず、二度と過ちを繰り返してはいけないという戦争体験者の想いを伝えていくために、丁寧に心を込めて手記を朗読することを心がけています。



(ライター：横手高校定時制3年
(左から)佐藤理湖、諸越知美)



次の世代へ

公演を観た人たちからは「大切な活動なので、ずっと続けてほしい」「もっとたくさんの人に聴いてもらいたい」という感想が寄せられています。また、朗読した子どもたちの中には、友だちを誘って翌年も朗読者として参加したり広島に行ったりするなど、問題意識を持ち、自分にできることを考えて行動するようになった方がいるそうです。このような反応が朗読を続けていく力になっていると代表の小松恵里さんは話します。

戦争を知らない私たちは、平和は当たり前にあるものだと思ってしまっています。しかし、74年前に戦争があった事実を忘れず、考えて行動していかなければならないと考えさせられました。朗読グループあおぞらでは、世代を問わず参加してくれる方を募集しています。みなさんも、参加してみませんか。



高校生が考える SDGs×朗読グループあおぞら

当団体の活動はSDGsの次の目標にあてはまると考えました。

■目標4「質の高い教育をみんなに」

ターゲット7「2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。」

■目標16「平和と公正をすべての人に」

ターゲット1「あらゆる場所において、全ての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。」

原爆投下は世界的にも有名な出来事で、授業でも取り上げられますが、当時の話を詳しく知ることは授業だけでは補いきれないと思います。同団体の活動は平和への意識を高め、あらゆる争いを止める第一歩だと考えました。

取材を通して感じたこと

私は小学生の頃、朗読グループあおぞらの朗読劇を観たことがあります。小さいながらも心に響くものがありました。それは、今回の取材でも同じでした。

大勢の方に聴いてもらうことも大切ですが、戦争体験者の想いを観客一人ひとりの心にどこまで届けることができるかを最後まで考え抜く姿勢と、諦めずに行動し続ける気概を強く感じました。これからの平和をつくっていく私たち世代が学ばなければならないことだと思いました。

(ライター：横手高校定時制2年 田高良樹)



(編集：奥ちひろ)

NPOの基礎知識

今月のテーマ

NPO法人を設立するには

「NPO」という言葉はよく聞くけれど、
どういう意味なのか、どんな活動をしているのか。
何となく分かるけれど、よくわからない。

『ハンサン』の編集担当1年目の小山が
調べて学んで理解したことを
私と同じようにNPOをよく知らない方にも
分かるようにお伝えしていきます。

7月号では、NPO法人とは何かについて書きました。今回はNPO法人の設立方法を紹介します。

Q. NPO法人を設立するためには、必要な手続きを教えてください。



※総会の議案や申請書類のひな型は、県のHPからダウンロードできます。

美の国あきたネット（県HP） ▶ 右上のキーワード検索に「設立認証申請に必要な書類」と入力して検索

*1) コピーを提出する際に本物の書類と同じだという記載と法人印を押印したもの。

*2) 宗教活動や政治上の主義の主張が主たる目的でないことや、特定の公職の候補者等や政党を推薦、支持、または反対することを目的としないことを記すもの。

*3) 暴力団もしくは、その構成員等の統制下にある団体でないことを記すもの。

若者一人ひとりが活躍できる社会を目指して 若者の就活を応援します ~秋田県南サポートステーションよこて~

■ 秋田県南若者サポートステーションよこて (サポステよこて)はどんなところですか？

望んでいても自分の力では仕事に就くことが難しい若者の自立を応援する施設です。対象は、主に県南部在住の15～39歳の方で、就職活動に悩みを抱える若者です。

総務省の労働力調査によると、就職活動をして就労につながらないでいる15～34歳の若者は全国で60万人います。秋田県内には、推定で5500～6000人いるとみられています。このような若者を支援するために、厚生労働省では、全国で約170か所に「地域若者サポートステーション」を設置しています。秋田県には、秋田市（秋田若者サポートステーション）と横手市（サポステよこて）の2か所にあります。サポステよこては2014年に設置され、秋田県南NPOセンターが厚生労働省から委託、横手市から支援を受けて運営しています。

2019年6月現在、サポステよこてを利用された方の総数は255人となりました。そのうち就職された方は141人で、職種別では卸売・小売業に次いで製造業が多くなっています。就職者1年後の定着率は70%で、就職後継続してがんばっている方が多くいます。サポステよこてを多くの方に知っていただき、利用の輪を広げられるよう、ご理解とご協力をお願い致します。

所在地：横手市横山町 1-1（すこやか横手 1F）

TEL：0182-23-5101

※水曜、日曜、祝日、
年末年始は休館。
相談は要予約。



■ 一人ひとりに合わせた支援を行います

◆個人面談

面談を通じて就職活動の悩みを確認し、何から取り組んでいけば良いかをスタッフと一緒に考えていきます。何回か面談を重ねた結果、ご本人の希望とスタッフの見立てが異なっていることもあります。このようなときに、いくつかあるご本人の課題の中で優先して取り組むべきことは何かを話し合っ決めていきます。

◆セミナー

利用者が抱える課題を克服できるように、様々なセミナーを行っています。自分のペースや予定に合わせて受講することができます。また、受講した効果を振り返り、次のステップに生かせるよう工夫しています。

◆職場見学・体験

ご本人の希望する職場や企業にスタッフが直接出向き、職場見学や2週間程度の実習をお願いしています。職場見学・体験を経て就職した利用者からは、就職後もストレスなく働くことができ良かったという感想を多くいただいています。たくさんの企業の理解をいただいて職場見学・体験の機会を増やし、若者が活躍できる働く場を開拓していきたいと考えています。

◆出張就職相談

県南7市町村にスタッフが出向いて相談窓口を開設しています。詳細はホームページや市町村の広報紙、さきがけ新聞の県南地域情報欄に掲載されますので、ご確認ください。

（執筆：草薙正哉、編集：奥ちひろ）

秋田県ボランティア・NPO活動ニュース県南版

ハンサン

2019年8月10日発行
8月号 VOL.144

発行：秋田県あきた未来創造部地域づくり推進課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター（南部市民活動サポートセンター）

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00～18:00
土・日 9:00～17:00

【休館日】木曜日・年末年始（12/29～1/3）

〒013-0046 横手市神明1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail: ssc7002@luck.ocn.ne.jp

http://www.akita-kenmin.jp/



編集スタッフの
つぶやき VOL.04

共助・共生社会づくり担当
八嶋 英樹

この号が出る頃は、暑さも折り返し地点ですね。総務省が7月に発表した人口動態調査によると、秋田県の人口減少率は全国で一番高かったそうです（1.47%）。これからはまちづくりも福祉も、人口減少や少子高齢化の中でコミュニティの強化が課題となり、地域の支え合いが必要となってきます。いかに地域住民が手を結び、楽しく安心して生活していくかだと思います。自分が困っているときは周りも困っていると考え、周囲にも優しくなれるかもしれません。優しさこそが楽しさにつながる鍵なんじゃないかと妄想中です。